

指標及び目標達成状況確認表

基本方針	番号	環境指標	担当課	目標値 (2023年度)	各基準年度値 (2017年度)	前年度 (2018年度)	現状 (2019年度)	担当課の評価・今後の見通し
1. 温室効果ガス排出量の削減・エネルギー消費量の削減を進めます (西東京市地球温暖化対策実行計画・区域施策編)	1-1	温室効果ガス排出量 (国準拠)	環境保全課	442.2千t-CO <sub>2</sub> (2030年度)	597.6千t-CO <sub>2</sub> (2013年度)	531千t-CO <sub>2</sub> (2016年度)	549千t-CO <sub>2</sub> (2017年度)	直近の2017年の温室効果ガス排出量は、前年度を上回っており、2030年度の目標値達成のためには、これまで以上の省エネ対策が求められる。市民や市内事業者に対し、地球温暖化防止に向けた省エネ対策への普及・啓発を更に進める必要がある。
	1-2	温室効果ガス排出量 (都準拠)	環境保全課	359.5千t-CO <sub>2</sub> (2030年度)	513.5千t-CO <sub>2</sub> (2000年度)	531千t-CO <sub>2</sub> (2016年度)	549千t-CO <sub>2</sub> (2017年度)	
	1-3	エネルギー消費量 (都準拠)	環境保全課	4,327TJ (2030年度)	6,979TJ (2000年度)	5,324TJ (2016年度)	5,514TJ (2017年度)	直近の2017年度のエネルギー消費量は、前年度を上回っており、2030年度の目標値達成のためには、これまで以上の省エネ対策が求められる。市民や市内事業者に対し、地球温暖化防止に向けた省エネ対策への普及・啓発を更に進める必要がある。
2. 自然環境、歴史的及び文化的環境資源の保全・創出・活用を進めます	2-1	公園・緑地の面積	みどり公園課	255,132㎡	250,967㎡	251,506㎡	251,970㎡	目標値に向けて、順調に増加している。
	2-2	公園ボランティア数	みどり公園課	890人	740人	774人	827人	目標値に向けて、順調に増加している。
	2-3	郷土資料室の来館者数	社会教育課	3,000人	2,472人	1,714人	2,269人	基準年度と比べると少なくなっているが、コロナの影響を踏まえるとほぼ同程度となる。小学校や市民グループなど、団体見学が増えた。一層魅力的な展示を心がけるとともに、学校と連携した取組をさらに増やしていきたい。
3. ごみの削減、資源の有効利用を進めます	3-1	家庭ごみ原単位	ごみ減量推進課	347 g/人・日	360 g/人・日	357 g/人・日	361 g/人・日	市民への周知・啓発を行っているが、目標を達成するのは難しい見通しである。
	3-2	ごみ排出量	ごみ減量推進課	31,053 t/年	33,453 t/年	33,845 t/年	34,047 t/年	人口が推計以上に増加しており、目標を達成するのは相当に難しい見通しである。
	3-3	資源化率	ごみ減量推進課	37.10%	33.20%	32.80%	32.20%	資源化率を上げるには、新たな資源化策を実施しないと難しく、目標達成は難しい見通しである。
4. 安全・安心で快適な生活環境の確保を進めます	4-1	大気環境基準の達成状況	環境保全課	二酸化窒素…3/3 浮遊粒子状物質…3/3 光化学オキシダント…1/1 (達成地点/測定地点)	二酸化窒素…3/3 浮遊粒子状物質…3/3 光化学オキシダント…0/1 (達成地点/測定地点)	二酸化窒素…3/3 浮遊粒子状物質…3/3 光化学オキシダント…0/1 (達成地点/測定地点)	二酸化窒素…3/3 浮遊粒子状物質…3/3 光化学オキシダント…0/1 (達成地点/測定地点)	【二酸化窒素】一般局、自排局ともに引き続き低下傾向を示している。なお、一般局では14年連続ですべての測定局で達成した。自排局では2年連続ですべての測定局で達成した。自動車排出ガス対策、法令の規制対象外である小規模燃焼機器の排ガス対策等に引き続き取り組んでいく。 【浮遊粒子状物質】前年度に続きすべての測定局で達成した。工場、廃棄物焼却炉などの固定発生源対策やディーゼル車対策に引き続き取り組んでいく。 【光化学オキシダント】夏季の光化学スモッグの発令日数は、学校情報11日・注意報5日であった。光化学オキシダントの原因となる揮発性有機化合物、窒素酸化物の排出削減対策に、東京都や近隣自治体と連携して取り組んでいく。
	4-2	河川の水質の環境基準の達成状況	環境保全課	環境基準以下を維持 (BOD…3 mg/L以下)	BOD…0.8 (mg/L) (石神井川溜淵橋)	BOD…0.9 (mg/L) (石神井川溜淵橋)	BOD…0.9 (mg/L) (石神井川溜淵橋)	昭和63年度から、年々低下する傾向がある。これは、下水道の整備および東京湾における総量規制(COD、窒素、リン)の強化、地域住民の環境に対する意識の向上が図られたためで、水質の改善が見られる。なお、全ての地点で環境基準を満たしているが、降雨時はDO(溶存酸素量)が低下し、BOD(生物化学的酸素要求量)が高くなる傾向がある。
	4-3	自動車騒音の環境基準の達成状況	環境保全課	昼間…100% 夜間…100%	昼間…98% 夜間…96%	昼間…98% 夜間…95%	昼間…99% 夜間…93%	自動車騒音の環境基準の達成状況は昼間(6時から22時まで)において前年度より改善されたものの、夜間(22時から翌6時まで)においては前年度より悪化し、特に夜間における環境基準の未達成地点が多い状況にある。今後も関係機関と協力して、道路沿道の環境改善に積極的に取り組んでいく。
5. 持続可能な社会の実現に向けた環境意識の醸成・協働の仕組みづくりを進めます	5-1	環境学習事業数	環境保全課 他	140事業を維持	142事業	128事業	134事業	雨天中止や新型コロナウイルスの影響により中止した事業もあった中で、昨年度よりも事業数が6つ増えて134事業となったものの、目標値である140事業に届かない結果となった。2020年度は多くの事業が中止となり、事業数の大幅な減少が見込まれるが、感染予防を徹底しながら少しでも多くの事業を実施したい。
	5-2	環境学習講座への参加者数	環境保全課	1,500人を維持	1,501人	1,623人	1,512人	新型コロナウイルスの影響により、3月開催予定の講座が中止となったが、それでも目標値を達成することができた。2020年度は多くの講座が中止となり、参加者数の大幅な減少が見込まれるが、感染予防を徹底しながら少しでも多くの講座を開催したい。
	5-3	地域での環境保全活動に参加したことの市民の割合	環境保全課	10%	9% (2018年度)		※次期計画策定時に調査予定	